



JRANSAの海外案件への取り組み





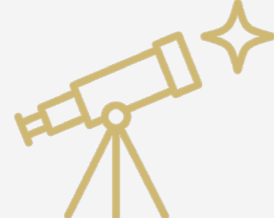
～航空安全を支える技術と制度を、世界へ～



令和8年2月4日
技術交流会資料

一般財団法人 航空保安無線システム協会

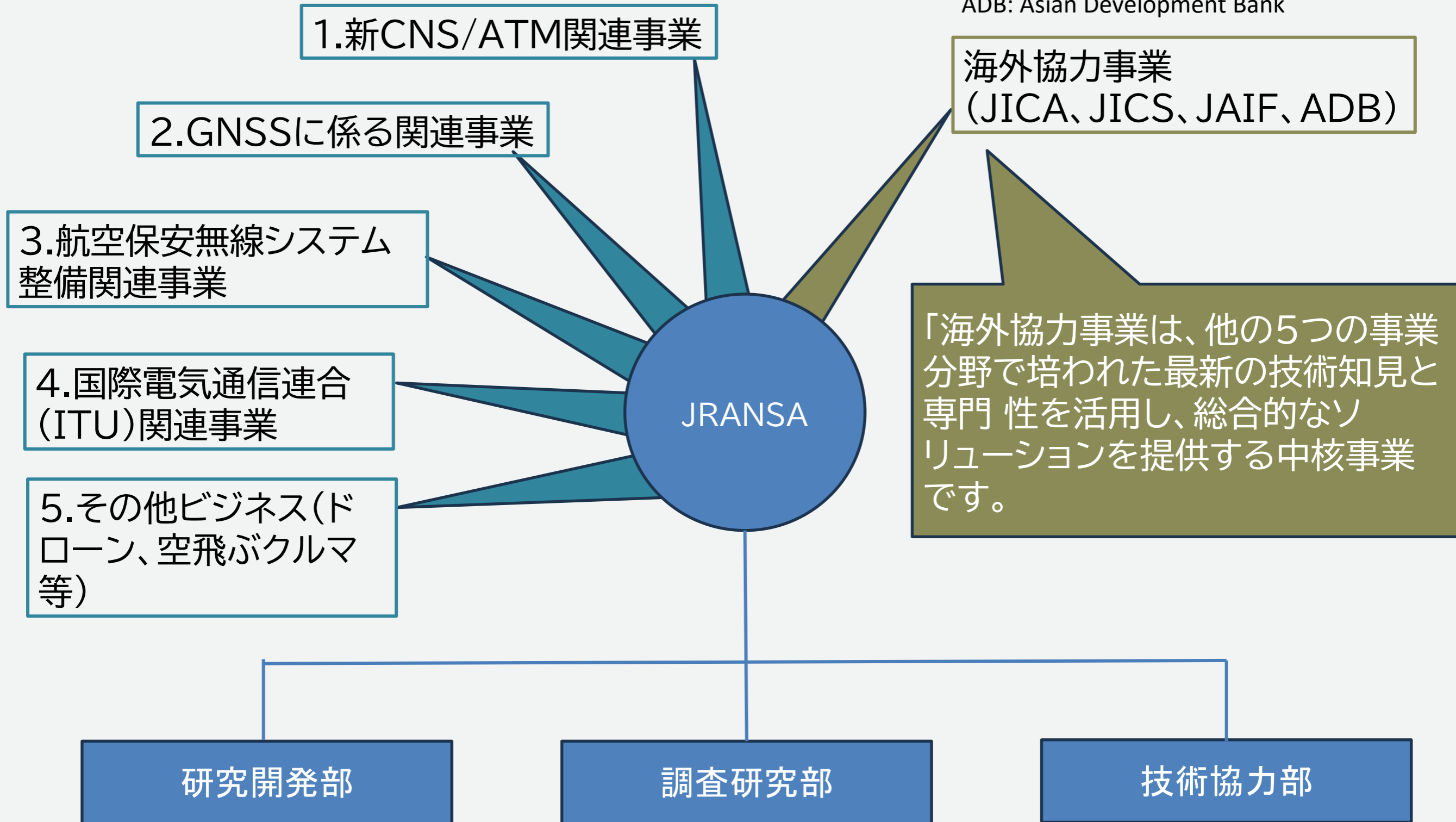
本日のアジェンダ

- 1  JRANSAの概要と海外案件における強み
- 2  拡大を続ける海外協力の実績
- 3  案件形成の仕組み
- 4  途上国現地派遣時のリスク
- 5  我が国の技術・知見・経験を、海外の航空管制技術支援へ

1. JRANSAの概要と海外案件における強み

事業の柱と組織体制

JICA: Japan International Cooperation Agency
JICS: Japan International Cooperation System
JAIF: Japan-ASEAN Integration Fund
ADB: Asian Development Bank



参考：インド太平洋戦略(質の高いインフラ整備)

自由で開かれたインド太平洋 (Free and Open Indo-Pacific)

「地球儀を俯瞰する外交」

国際協調主義に基づく「積極的平和主義」

安倍政権の実績を踏まえ、これらの外交コンセプトを更に発展させる

自由で開かれたインド太平洋

国際社会の安定と繁栄の鍵を握るのは、
「2つの大陸」：成長著しい「アジア」と潜在力溢れる「アフリカ」
「2つの大洋」：自由で開かれた「太平洋」と「インド洋」
の交わりにより生まれるダイナミズム
⇒ これらを一体として捉えることで、新たな日本外交の地平を切り拓く

アフリカ

- 高い潜在性
 - ・ 人口約13億人 (世界の17%)
→ 2050年には25億人との予測
 - ・ 面積3000万km² (世界の22%)
 - ・ 高い経済成長率 (2000~16年の平均は4.8%)
 - ・ 豊富な資源と有望な市場
- ⇒ 「成長大陸」として飛躍する中、
貧困・テロ等の課題あり

アフリカ諸国に対し、開発面
に加えて政治面・ガバナンス
面でも、押しつけや介入では
なく、オーナーシップを尊重
した国造り支援を行う

- ◆ **インド太平洋地域は、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害、現状変更等の様々な脅威に直面。このような状況下において、日本は、法の支配を含むルールに基づく国際秩序の確保、航行の自由、紛争の平和的解決、自由貿易の推進を通じて、インド太平洋を「国際公共財」として自由で開かれたものとする**ことで、この地域における**平和、安定、繁栄の促進を目指す。**

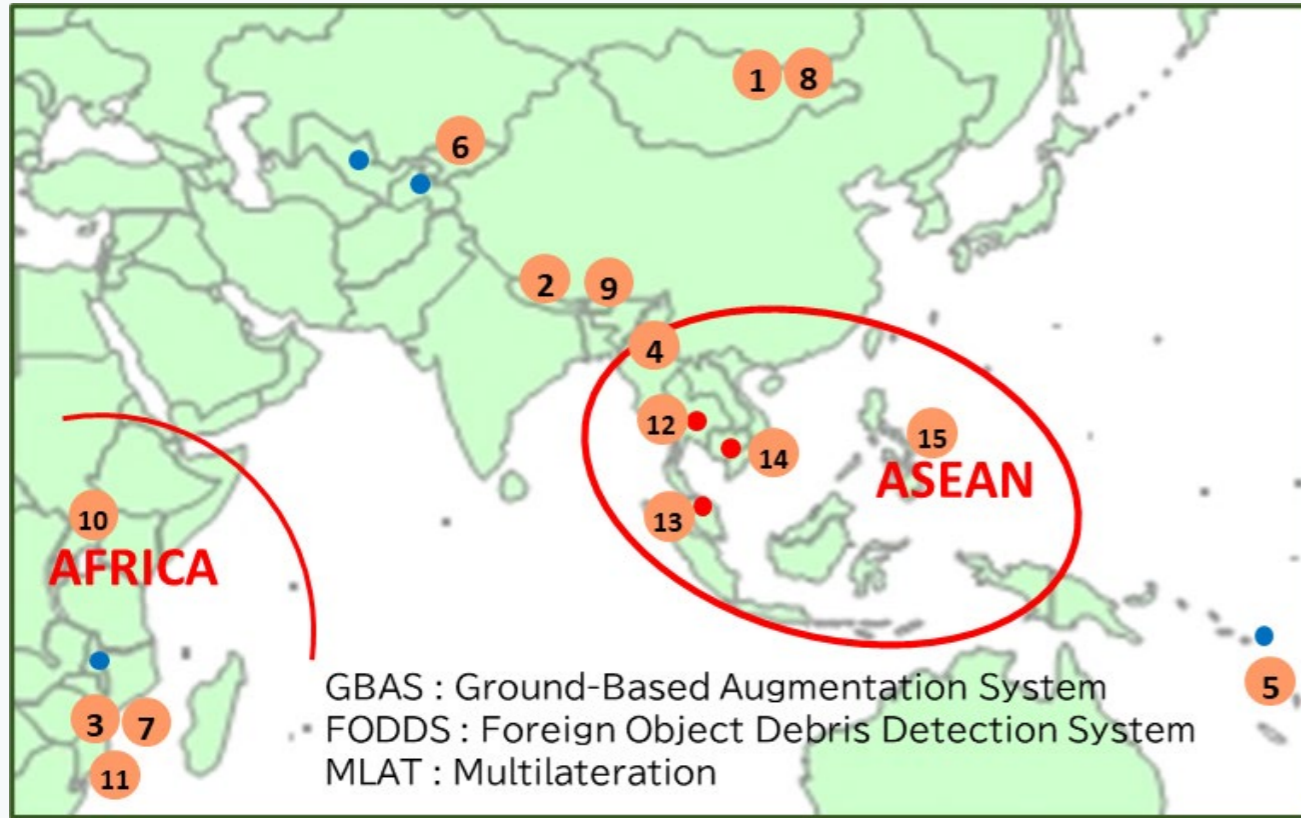


アジア

- 東南アジア及び南アジアでは
民主主義・法の支配・市場経済
が根付き、自信・責任・リー
ダーシップの目覚めあり
- ⇒ 今や「世界の主役」たるアジ
アの成功を、自由で開かれたイ
ンド太平洋を通じてアフリカに
広げ、その潜在力を引き出す

ASEAN地域の連結性を向上さ
せることで、質の高いインフ
ラ整備、貿易・投資の促進、
ビジネス環境整備、人材育成
強化を図る。ASEANの成功を、
中東・アフリカ等の地域に広
げる

2. 拡大を続ける海外協力の実績



ODA

- 有償資金援助(円借款): 空港整備事業等
- 無償資金援助: 管制塔移設事業、航空保安システム整備
- 技術協力型プロジェクト: 人材育成・技術移転事業
- 基礎調査: 航空管制システム等情報収集・確認調査

○国際業務室海外展開案件発掘調査

- R1年度 MLAT, 空港施設全般(フィジー、PNG)
- R4年度 GBAS, FODDS, MLATの活用促進
(タイ、マレーシア、フィリピン、パラオ)
- R5年度 GBAS, FODDS, MLATの新規整備案件発掘
(インドネシア、フィリピン)
- R6年度 太平洋島嶼国招聘事業、新規整備案件発掘、CRV運用支援
(フィジー、サモア、トンガ、招聘(島嶼国13国、フィリピン))
- R7年度 太平洋島嶼国招聘事業、CRV国際会議、技プロ案件
(ラオス、招聘(島嶼国13国、ラオス))

○JRANSAsが参画しているJICA・JICSプロジェクト

1. モンゴル国新ウランバートル国際空港の人材育成及び運営・維持管理能力向上プロジェクト(航空管制分野)【有償勘定技術支援】(2016.6-2021.10)
 2. ネパール国技術協力型プロジェクト CNS/ATM技術協力(2023.2-2026.2)
 3. モザンビーク共和国(Economic and Social Development Programme (Air Traffic Control System・National Aviation Security System))(JICS案件)(2023.5-2026.3)
 4. ミャンマー連邦共和国航空機監視システム整備計画 管制レーダー整備(ソフトコンポーネント)(2019.4-2024.3)
 5. フィジー共和国主要空港整備計画 DVOR/DME基本設計(2023.1-11延長検討)
 6. キルギス共和国国際空港管制施設整備計画準備調査 管制塔移設(2023.6-2024.3)
 7. モザンビーク共和国航空保安システムに関する情報収集・確認調査(2022.9-2023.4)⇒技術協力型プロジェクト
 8. モンゴル国チンギスハーン国際空港に係る情報収集・確認調査(2024.7-2024.10)
 9. ブータン国ドローン活用情報収集・確認調査プロジェクト(2024.12-2025.3)
 10. アフリカ地域空港・航空管制分野のトランスポートネットワークにかかる情報収集調査(2025.6-)
 11. モザンビーク国航空交通管制サービス能力開発プロジェクト(2026.2-2029.4)
- 電波システム周波数利用促進(総務省・国交省協力案件)
12. GBAS実証実験: スワナンプーム国際空港
 13. FODDS実証実験: クアラルンプール国際空港
 14. MALT実証実験: フーコック空港
- JAIIF(日本アセアン統合基金)による技術協力
15. GIPTA2.0 ASEANを対象としたGNSS整備計画研修(2024.2-2026.8)

実績ケース①ASEANでのGIPTAプロジェクト

GIPTA : Global Navigation Satellite System (GNSS) Implementation Plan Training in ASEAN

GIPTA1.0
(2020.5-2023.5)



GIPTA2.0
(2024.2-2026.8)



ASEANにおける
GBAS、SBAS展開

GNSS(SBAS、GBAS等)の概要を理解し、ASEAN地域でのGNSS導入への方向性を議論するシンポジウムを開催。3か国で地域WS及び東京でWSを開催。また、GNSS解析装置を4か国に設置し、SBAS信号を模擬したシミュレータソフトを導入し、マニラ訓練でSBASの仕組みを理解する。

(GIPTA2.0の概要)

1



マニラシンポジウム:
ASEAN10か国の航空当局からの参加者による、シンポジウムを開催し、今後のASEANでのGNSS展開について方向性を議論

2



地域ワークショップ:
ジャカルタ、バンコク、ハノイにおいて、隣国からの航空当局担当者も参加して、GNSS導入に関する技術の紹介を行い、開催国及び隣国でのGNSS導入について議論

3



GNSS解析装置の整備:
ジャカルタ、バンコク、ハノイ、マニラの4か所にGNSS解析装置を設置し、設置場所におけるGNSS環境を分析するとともにデータを集約し、SBASシミュレータでSBAS信号を模擬

4



東京ワークショップ:
ASEAN10か国の航空当局担当者を東京に招聘し、JCABのGNSS関連施設視察、最新の日本での技術情報を習得し、将来のASEANでのGNSS導入の方向性を技輪

5



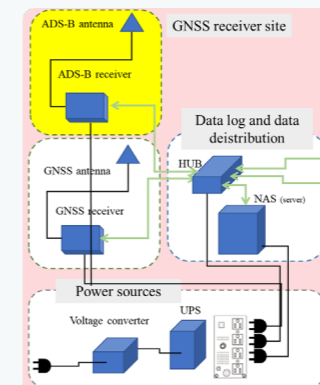
マニラ訓練:2026年5月に予定
ASEAN10か国の航空当局担当者をマニラに招聘し、ASEANのGNSS導入にかかる技術習得、導入を判断するためのコスト・ベネフィット分析手法を習得する。加えて、SBASシミュレータによるSBAS信号作成手法についても習得する。



マニラシンポジウム集合写真



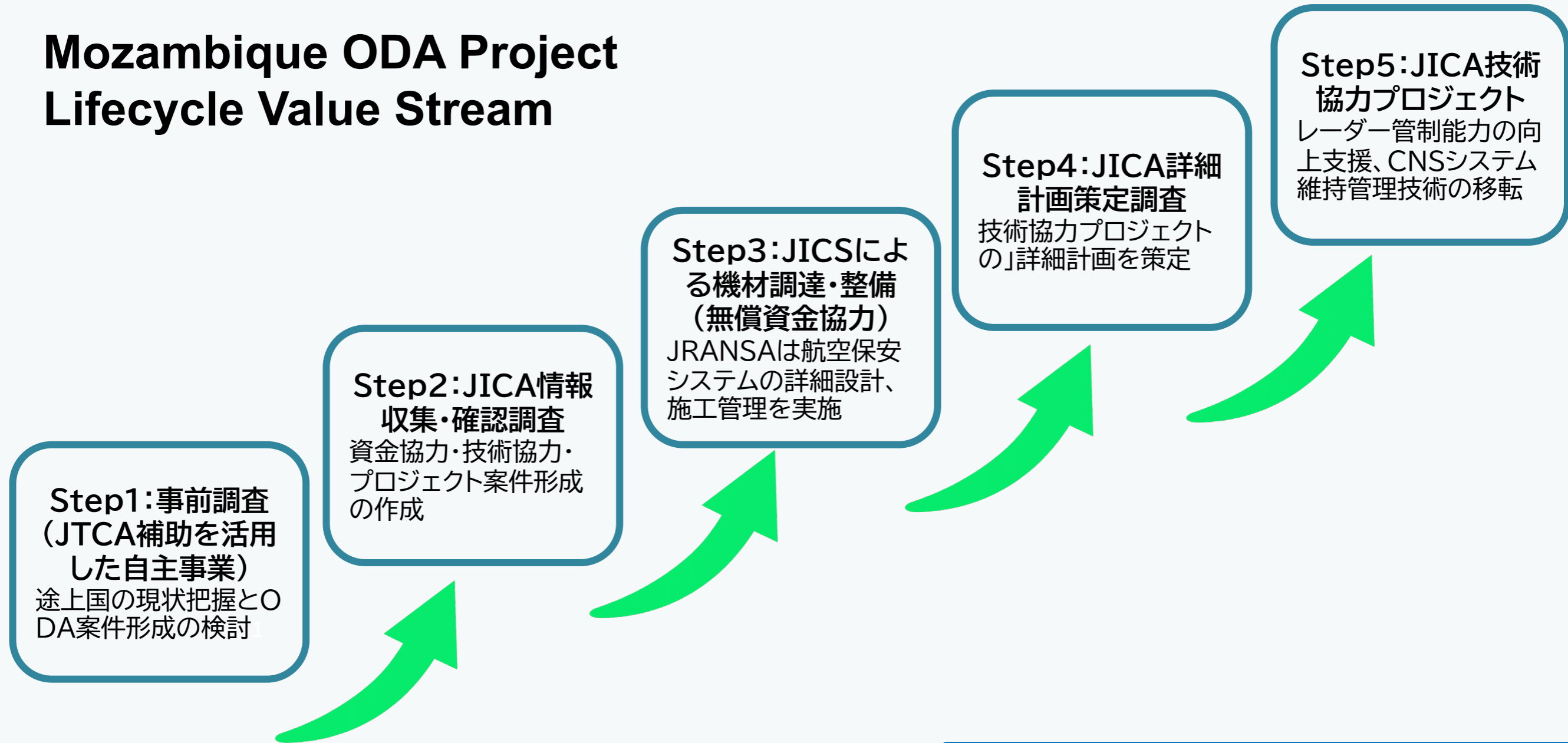
東京ワークショップ集合写真



GNSS解析装置概要

3. 案件形成の仕組み(モザンビーク国の事例)

Mozambique ODA Project Lifecycle Value Stream



「JRANSAは、初期の調査から数十億円規模のインフラ整備、そして持続性を担保する技術協力まで、一貫通貫で案件をプロデュースします。このプロセス自体が我々の強みです。」

“「我が国の質の高いODAは高く評価されており、JRANSAが実施する技術協力もその一翼を担っています。」”

4. 途上国現地派遣時のリスク

JRANSAの特殊性: 現地派遣職員の高齢化 現地での安全・健康面での留意

衣

- 南国での現地サーバイでの日焼け対策



滑走路調査(東ティモール)

- 極寒の現地業務での服装、シューズ



冬季の交通渋滞(モンゴル)



冬季の服装(モンゴル)

食

- 歯磨き、飲用水のミネラル水の利用



ホテルでの無料ミネラル水(ネパール)

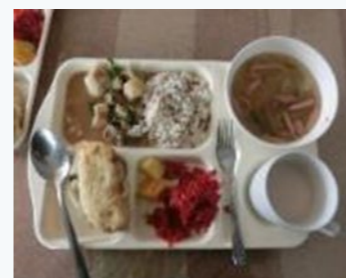


会議ではミネラル水を配布(東ティモール)

- 現地料理の特殊性(食が合わない)



モモ(ネパール)



羊料理(モンゴル)

住

- 安全性の高いホテルの利用



ホテル入り口のガードマン(ネパール)

- 利便性の高いホテルの利用



慢性的な交通渋滞(ネパール)



バスタブ・トイレ(ネパール)

5.我が国の技術・知見・経験を、海外の航空管制技術支援へ

Point1: 海外関連機関とJRANSAとの関係構築を拡大と継続した支援

- ・ASEANを中心に、航空局を始め、関係機関と良好な関係を構築します。

- ・JRANSAが有する、技術・経験・知見をもとに総合的な支援を行っていきます。

Point2: 海外の要望・課題への日本の技術を活用

- ・案件の多様化に対応するため、個人が有する技術力を組織的な技術力として、初期段階から、実施段階まで一貫した支援を行います。

- ・他の財団及び企業と協力して総合的な支援を行います。
- ・日本が有する、技術・製品を活用した支援を行います。

Point3: 将来へのJRANSA海外事業

- ・将来の多様化する海外からの要望に対して、対応できるような新たな技術力(ドローン、空クル、宇宙、DXなど)を蓄積していきます。

- ・JICAの案件に加え、アジア開発銀行、世界銀行等の案件に参加していきます。

今後、皆様のご協力をいただき、責任をもって海外案件に取り組んでまいります。